

## 波切城(波切砦、波切九鬼城)(志摩市大王町波切)(公園)

波切城（なきりじょう）は、三重県志摩市大王町波切にあった日本の城。

### 概要

南北朝時代、当地を支配していた土豪の川面氏により海岸段丘を天然の要害とし創築された丘城である。砦と呼ぶ方が相応しい規模であるとし、「波切砦」と呼ばれることがある。なお、1994年（平成6年）発行の『大王町史』ではこの城とは別に、同町内に砦があったとしている。

勢力拡大を狙い、紀伊国九鬼（現在の三重県尾鷲市九鬼町）より東進を開始した九鬼隆良に貞治年間（1362-1368年）に制圧された。6代目嘉隆が志摩国全域を支配し、1594年（文禄3年）に鳥羽城を築城するまで九鬼氏の根拠地であった。

城跡は公園として整備されているが、当時のものとされるわずかな石垣に面影を残すのみである。

Wikipediaによる

九鬼氏は南北朝時代、藤原北家熊野別当流の藤原薬師丸隆真が後醍醐天皇を足利尊氏の軍勢から救った功により、九鬼姓を賜ったことが始まりです。

貞治2年 正平18年（1363年）隆真の子・隆良が志摩国波切の土豪・川面氏の養子となり、志摩・九鬼氏の開祖となった際、波切城を築城し、居城としました。

その後、九鬼氏は伊勢国司北畠氏に従い、神官らと戦いつつ海賊衆の棟梁として、勢力を強めます。

第五代・定隆の子として浄隆・嘉隆が生まれると、兄・浄隆が九鬼家惣領家の居城・田城城を継ぐと、嘉隆はその支城となっていた波切城に入ります。

その当時、志摩では志摩十三地頭と言われる有力土豪同士が盟約で結ばれた連合があり、九鬼家もその一員でした。しかし、勢力を強めた九鬼家の不可侵盟約の無視が目立つようになり、とうとう志摩七党が伊勢国司・北畠氏の支援を得て波切城に押し寄せ、嘉隆を安濃津へ追いやります。

若干自業自得です。

文禄12年（1569年）滝川一益を介して織田信長に接近した嘉隆は、信長が北畠氏の居城・大河内城を責めた際、水軍を率いて志摩に戻り、志摩七党を敗って波切城を取り戻します。

その後、嘉隆は織田水軍の大將として木津川口の海戦などで活躍、信長死後は豊臣秀吉に従い小牧・長久手の戦いや九州征伐などで活躍、重用されます。

波切城は文禄3年（1594年）に鳥羽城が築かれ居城が移されると廃城となりました  
塩谷建設欄ブログによる

